

## 第1回かのや未来デザイン会議

日時	令和4年10月12日（水）15時00分から17時00分
場所	市役所7階 大会議室
出席者	委員14人（敬称略、五十音順） ※1名（丸野里美）欠席 伊藤ふさ、片野田拓洋、金久博昭、上高原貴子、清藤修、隈崎和代、 小林千鶴、志賀玲子、白石秀逸、坪水徳郎、別府込初男、宮下昭廣、 山之内眞由美、和田滋

### ■主な質疑等

発言者	内容
	<p>【説明】「鹿屋市を取り巻く人口減少の現状について」 ※事務局から説明のうえ、委員と情報共有。質疑等無し。</p>
	<p>【議事】</p> <p><u>（1）ビジョンの策定の基本的な考え方について</u></p>
委員 事務局	<p>○ ビジョンの位置付けはどうか。 ⇒ 2015年（平成27年）に人口ビジョンを策定した。2060年までに人口約9万人を維持するという将来目標をたて、2018年（平成30年）に第2次総合計画を策定し各事業に取り組んでいる。今回のビジョンは総合計画のなかで人口減少対策に特化したものになる。</p>
委員 事務局	<p>○ 具体的な事業までは掲載しないのか。計画というより目標か。 ⇒ 取組の方向性を示すものである。目玉となるような方向性を出したい。</p>
	<p><u>（2）ビジョン策定の進捗状況について</u></p>
	<p><u>①これまでの取組の効果検証</u></p>
委員 事務局	<p>○ デジタル技術の活用方法がわからないとは、具体的にどういうことか。 ⇒ 町内会を想定している。若い人を巻き込むためにもデジタルの活用が必要。</p>
委員 事務局	<p>○ SNSの活用のことか。 ⇒ 情報発信を含めて活用できていない。</p>
委員 事務局	<p>○ 現在ではデジタル活用は当然のことであり、デジタル抜きには考えられない。デジタルの普及については、市が責任を持って把握する必要がある。今は小学校からデジタル教育が行われているが、大人がついていけない。国もデジタル田園都市構想を掲げており、デジタルの活用は重点施策になる。 ⇒ デジタル活用は、今後、見守り活動にもつながると考えている。</p>
	<p>○ 鹿屋市の教育は、多彩で特色があると言える。高校は工業系、農業系、商業系、普通科と揃っており、加えて体育大学、看護専門学校がある。ここまで多彩な教育が1つの自治体にあるところは珍しい。離島の高校では、6次産業について高校生が活動を行っていた。県立高校があるのでハードルはあるかもしれな</p>

事務局	<p>いが、教育的資産をうまく連携できないか。</p> <p>⇒ ホストタウンとしてタイを受け入れた時、高校生の調理コンクールで受賞した。農高に全国から生徒が集まるようにしたい。「かのや100チャレ」では、県内外の中高生に鹿屋の課題解決のための意見を出してもらっている。地元の高校生が地元の政策に興味を持つように取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>○ 体大と言えばスポーツに限定されがちであるが、自然の家と連携して野外教育も行っている。</p> <p>千葉県南房総市では、自然体験活動を教育委員会が中心に行っている。市立幼稚園にて総合的学習として実施している。子どもの時から地元の素晴らしさを知ること、郷土愛の醸成につながる。海洋スポーツセンター、自然の家を活用して自然の中での体験により郷土愛につなげることもできる。</p>
委員	<p>○ 出会いの場を提供するイベントを運営してみた中で、「婚活」「恋活」となると行きづらいとの声を聞く。コミュニティを作るという視点でイベントを実施してみた。友達づくりのきっかけとなるイベントやコミュニティができると参加しやすいのでは。</p>
委員	<p>○ 総合大学を作れないか。高校卒業後の進学先がないという声がある。東京から岩手に進学してそのまま就職した人もいる。鹿屋への進学で若者を呼び込めるのではないか。</p>
事務局	<p>⇒ ゆるい形での出会いの場を創出していきたい。「アウトドアミーティング」は抽選になるほど人気のある企画になっている。</p> <p>以前、専門学校誘致ができないか調査したこともあった。少子化が進む中で、立地条件等でなかなか進まなかった。</p>
委員	<p>○ 人口減少対策ビジョンの位置付けは、横の連携を強化していくビジョンということで良いか。</p> <p>特色ある教育の中に、地元企業と連携しているものを押せないか。特に農業分野。市全体のブランディングのてこ入れが必要。長期的に「かのや」を出していく。農業というビジネスの視点も出して良いのでは。「農業と言えばかのや」「農業教育と言えばかのや」「農業ビジネスと言えばかのや」3つ以上を掛け合わせれば大きなものを生む。</p>
事務局	<p>⇒ 農業・林務など分野別の計画と整合性を合わせていく。</p>
委員	<p><u>(2) ビジョン策定の進捗状況について</u></p> <p><u>②重点施策(案)(今後の新たな取組)</u></p> <p>○ 鹿屋の強みは農産物と自然。美味しい農産物。「自然」「農業」がキーワードになるのでは。未来に羽ばたく人材育成に自然・農業も結びつく。</p> <p>○ 鹿屋体育大学ではスポーツ健康都市として、鹿屋市との連携を強化していきたい。魅力ある教育環境は、中学・高校の環境整備を見せてほしい。</p> <p>○ 誘致した企業に地元から引き抜かれては意味がない。出る人は、出て行って帰ってこないか、出ていずれが帰ってきたいの2パターンだと思う。若者がいっ</p>

	<p>たん外に出ることは止めることができない。</p> <p>○ 他の自治体の事例を取り入れているが、他の自治体では効果があるとされているのか。県が行っている事業もあるので調べてみてほしい。</p> <p>ソフトばかりになっているが、ハードは必要ないのか。都市計画の面も検討してほしい。</p>
--	---